

自治みらい

No.98
2026.9



● 理事長あいさつ	理事長 佐藤 貢	1
● 役員・評議員		1
● わがまちづくり	子や孫たちが帰ってきたいくなる町へ（新富町）	2
● おらがまちの安心安全	高千穂町の防災・減災対策について（高千穂町）	4
● 市町村の最前線	人口戦略は「究極のインフラ整備」 ～ 10 年後、20 年後を見据えた未来への投資～（都城市）	5
● ザ・まちおこし	漁業の島「島野浦島」を観光で活性化（延岡市） なぜ国富町は「鶏炭のまち」を名乗るのか（国富町） 地域主体で実施する買い物支援及び自主財源確保の取組（小林市）	6 7 8
● 郷土名物	美郷町が育む歴史と郷土の味（美郷町） 秋には紅葉ライトアップも!! 癒やしスポット「長田峡」（三股町）	9 10
● みやざきの歴史再発見!	高城合戦の史跡（木城町）	11
● まかっしょけ! 私たち頑張っちょりま～す。	日之影町保健センター 甲斐 美有さん 綾町農林振興課 入船 紗希さん 高原町建設水道課 白石 暁毅さん	12
● 協会だより	資金貸付事業 新市町村振興宝くじ（ハロウィンジャンボ宝くじ）交付金市町村交付状況 宮崎県・市町村災害時安心基金による被災者支援事業 市町村職員研修（令和 8 年度研修の様子から） 研修センターの注目研修 Pick Up これから実施する各種研修のご案内	13 14 15 18 20 21
● 市町村振興支援事業	市町村窓口業務改善事業 市町村・地域づくり団体等協働モデル事業 市町村職員自主研究グループ支援事業	22 23 24
● 特集	令和 7 年度海外派遣研修報告 宮崎市農地政策課 主任主事 藤岡 拓麻さん	25

表紙写真 宮崎県東児湯消防組合

宮崎県東児湯消防組合は、高鍋町、新富町、木城町、川南町及び都農町の消防業務を担うために、昭和 45 年 5 月に設立された一部事務組合です。

当組合では、令和 7 年度に協会の資金貸付事業を活用し、社会情勢や地域の実情の変化に応じた施設整備を進めるため、消防本部庁舎の空調設備等の改修、消防通信指令システムの一部である車両運用端末装置の更新及び高規格救急自動車の更新の 3 事業を実施しました。



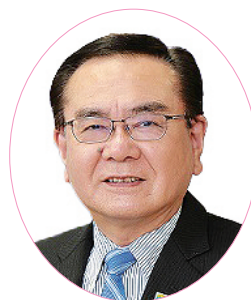
宝くじキャラクター「クーちゃん」

サマージャンボ宝くじとハロウィンジャンボ宝くじの収益金は、市町村の「明るく住みよいまちづくり」に使われています。

■ 理事長あいさつ

はじめに

当協会は、市町村振興宝くじ（通称サマージャンボ宝くじ）の収益金等を活用し、市町村の財政支援のための貸付事業や職員研修事業等、市町村を支援する事業を行い、もって住民福祉の増進に資することを目的に昭和54年に設立され、平成23年に公益法人に移行いたしました。



平成10年に研修事業を充実させることを目的に、市町村職員研修センターを設置しまして、「市町村職員研修基本計画」に基づき、急速に変化する社会環境に的確に対応できるよう多様な研修を企画・実施し、職員の人材育成に努めているところです。

今年度も引き続き全ての職員が受講しやすい研修環境の充実に努めるとともに、職員間の相互協力を図るための広域的なネットワーク形成の場を提供いたします。

また、新市町村振興宝くじ（通称ハロウィンジャンボ宝くじ）の収益金等を少子高齢化対策や芸術・文化の振興、地域経済の活性化など地域課題の解決に対応するための財源として、全額を全市町村へ交付しております。

さらに、平成19年に県及び市町村と共同で災害時安心基金を設置し、迅速な支援確保の観点からその管理運営に携わっており、被災市町村に対する支援金の交付をもって被災住民の支援を行っております。

今後とも、法人の財政状況を明確にし、社会ニーズに応じた公益活動の促進と透明性向上に努めるとともに、市町村振興に資する事業に取り組んでまいりますので、サマー・ハロウィンの両ジャンボ宝くじの販売促進をはじめ、当協会の運営について更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年9月

公益財団法人 宮崎縣市町村振興協会

理事長 佐藤 貢

■ 役員・評議員（令和8年7月1日現在）

役員

理事長	佐藤 貢	宮崎県町村会会長 日之影町長（代表理事）
常務理事	長嶺 郁夫	宮崎縣市町村振興協会事務局長（代表理事） 宮崎県市長会事務局長
理事	池田 宜永	宮崎県市長会会長 都城市長
	有村 健一郎	宮崎県町村会事務局長
	鈴木 一成	宮崎県市議会議長会会長 宮崎市議会議長
	松浦 光宏	宮崎県町村議会議長会会長 綾町議会議長
	森津 千尋	宮崎公立大学人文学部 教授
	渡辺 智裕	宮崎県総務部市町村課 課長
監事	中原 義博	公認会計士・税理士
	阪本 健一	宮崎縣市町村職員共済組合事務局長

評議員

高橋 透	宮崎県市長会 日南市長
小嶋 崇嗣	宮崎県町村会 新富町長
近藤 彩	弁護士
根岸 裕孝	宮崎大学地域資源創成学部 学部長 教授
須波 勇一郎	宮崎県自治学院 院長

子や孫たちが帰ってきたくなる町へ



新富町長
小嶋 崇嗣

はじめに

新富町は、宮崎県の南北に展開する海岸部のほぼ中央にあり、ピーマンやきゅうりを中心とした施設園芸や畜産といった農業を主産業としています。町の中央部には航空自衛隊新田原基地があるため、「基地のある町」という印象も強いでしょう。

県内の自治体の中では若年人口の割合が高いほうですが、高齢化率は3割を超えているため、町の魅力を高め、さまざまな経験をした子どもたちや孫たちが、「やがて帰ってきたくなる町」となるよう、様々な事業を展開しています。

優しい6つの無償化プラン

当町は全国的にも稀有な、子育て支援のための6つの無償化プランに取り組んでいます。それは、

- ① 3歳未満園児の保育料無償化
 - ② 小中学校の学校給食無償化
 - ③ 18歳までの子ども医療費の無償化
 - ④ 中学生までの国民健康保険税均等割の無償化
 - ⑤ 妊産婦・乳児健康診査の無償化
 - ⑥ 1歳児健康診査の無償化
- となっています。

全国2例目となる現行の電子投票の実施

当町も様々な分野で行政のDX化を進めていますが、令和7年度の町議会議員補欠選挙において、全国でも2例目となる現行の「電子投票」に取り組みました。

投票された町民の皆様からは、「予想以上に簡単だった」、「あっという間に投票できた」という好印象をいただきましたし、開票に従事する職員の負担も大きく低減することができました。



電子投票のイメージ

専門機関の設置と事業展開

行政だけでは実現できない課題を、専門機関を設置することで、取組を加速させています。

「一般財団法人こゆ地域づくり推進機構（以下「こゆ財団」）」は、役場の中にあった観光協会を発展的に解散し、ふるさと納税事務の代行を中心に事業展開する地域商社です。

ふるさと納税事務を行うことで町から交付される予算を使い、廃校を使った宿泊施設運営など、改めて町に再投資する事業を展開しています。

一方、農業分野では、民間企業の農業参入を支援する「一般社団法人ニューアグリベース」を設置しました。年々減少する農業の担い手として、企業の農業参入を促す取組などを進めています。



「サッカー」を核としたまちづくり

当町は、県内でも2番目に面積が小さく、観光名所などにも乏しいため、長らく「通過するまち」と呼ばれることもありましたが。

そのような状況を克服し、交流人口や関係人口を増やし、地域の魅力を高めるため、市街地にスタジアムとフットボールセンターを設置しました。

スタジアムは、Jリーグに参入しようとしていた「テゲバジャーロ宮崎」の親会社が建設し、町に寄付することで公共施設となり、同チームはホームスタジアムとして活用しながら、令和7年にはJ2に昇格する快挙を達成しました。

また、女子サッカーチーム「ヴィアマテラス宮崎」を支援し、選手の多くを「地域おこし協力隊」として採用するスタイルで、サッカーをしながら地域の産業の担い手となる取り組みを進め、令和6年度にはアマチュア最高峰であるなでしこ1部リーグ優勝を後押ししました。

フットボールセンターは、宮崎県サッカー協会が指定管理を担い、県内の大会や合宿を誘致し、スタジアムとあわせ年間10万人の方が、隣接する農畜産物直売所とあわせると50万人以上の方が訪れる町最大の交流拠点に成長しました。

「演劇」を核としたまちづくり

令和8年度からは、新富町文化会館の指定管理をこゆ財団が担うことになりました。

こゆ財団が劇場を運営するにあたり、全国に女優や俳優を目指す方や舞台芸術に関係する地域おこし協力隊を募集し、「劇団」をつくるプロジェクトを推進しているところです。

令和8年5月のオープニングイベントでは、宮崎市出身の女優である高石あかりさんと新富町を舞台にした映画を作成することを発表し、今後、劇団の活躍の場を広げる展開を進める予定です。



百年構想リーグD組の優勝を決めたテゲバジャーロ宮崎



地域で愛されるヴィアマテラス宮崎の選手たち



高石あかりさんも参加した文化会館オープニングイベント

おわりに

少子高齢化による人口減少は、全国的にも歯止めがきかない状況ですが、新富町は、「地域の魅力をいかに高めるか」に注力し、目的を持って町に来られる方々を増やそうとしています。

地域の魅力を高めることで、町から巣立った若者たちが様々な経験を踏まえた上で帰ってきて、町の産業の担い手となることや、町の出身者でなくとも、町で過ごした経験や体験をもとに、その後たとえ町を離れたとしても、町の「関係人口」として関わりを持つなど、町に知見や資源をもたらす人材となることを期待しています。

高千穂町の防災・減災対策について

高千穂町は九州山地のほぼ中央部、宮崎県の最北端に位置し、町の中心部を五ヶ瀬川が西北から南東にかけて貫流し、途中、名勝天然記念物高千穂峡が神秘的かつ雄大な自然を形成しています。

気候は、平地の標高が約300メートル以上で夏・冬の気温差が大きく、四季の変化に富み、自然環境が春の新緑、秋の紅葉となって観光資源の一環を成しています。

当町は大分県や熊本県と隣接しており、平成28年の熊本地震では震度5強を観測し、落石による国道・町道の通行止めや約200戸の停電、約2,600世帯の断水といった被害が発生しました。

当町では避難所を2週間開設し、延べ約800人の住民が避難しましたが、避難所の建物内に入らず、車中泊避難をする避難者も多く見受けられました。

当時は車中泊避難者を受け入れる施設等が整備されていませんでしたが、令和8年4月1日より、町内建設会社から緊急避難所としての場所及び施設等の提供を受けました。

この緊急避難所は総面積が約2,600㎡あり、緊急的な一時避難場所としてだけでなく、備蓄倉庫や水道、男女別のトイレも整備されており、熊本地震のような車中泊避難を希望する避難者も長期的に受け入れることが可能となりました。

また、夜間の照明や防犯カメラも設置されていることから、防犯面においても安心して避難生活を送れるようになっています。



高千穂町宮の前緊急避難所（夜間照明ライトアップ時）

近年、地震災害だけではなく、日本各地では毎年のように台風や大雨による被害が発生しており、当町においては台風や大雨を想定した防災訓練を毎年実施しています。

この訓練は自主防災組織の運営訓練・住民避難を主とし、消防団や警察、自衛隊にも毎年参加していただき、消防団や自衛隊車両による避難者輸送、自衛隊による炊き出し訓練などを行い、町民の防災意識向上を図っております。

今後も、これまでの災害対応で得られた経験を生かし、防災訓練を継続的に行い、住民の防災意識向上・関係機関との連携強化、併せて避難所施設や備蓄物資の整備を充実させ、更なる防災力の向上に努めてまいります。



自衛隊車両による住民輸送



自主防災組織・消防団による情報伝達訓練

人口戦略は「究極のインフラ整備」 ～10年後、20年後を見据えた未来への投資～

人口減少は日本における大きな課題です。都城市では、市民の皆さんにそのことを説明する際に、「消費の減少＝胃袋の減少」という身近な例を使って話をしています。

日本全体も当市もGDPの約6割は個人消費であり、個人消費の最大3割は食費です。つまり、GDPの約2割は人がご飯を食べることで経済を回していることになります。

したがって、人が減ることは胃袋が減ることであり、地域経済の縮小を意味します。

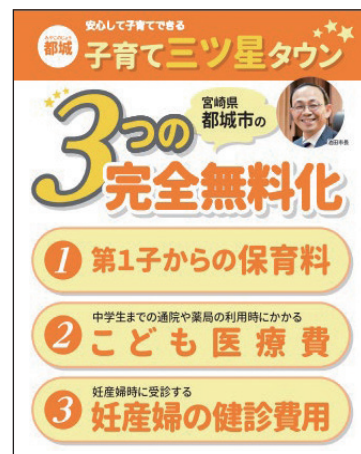
だからこそ、人口が減ってはいけないと市民の皆さんにお話をしています。

3つの完全無料化をはじめとする人口戦略

当市では、第1子からの保育料などの「3つの完全無料化」をはじめとする人口戦略を令和5年度から展開しています。

人口戦略を「究極のインフラ整備」と位置付け、10年後、20年後に今の人口を維持することを目標に、積極的かつ強力に取り組んでいます。

当初は10年後に人口減少を止めることを目標としていましたが、その成果が初年度から現れ、13年ぶりの人口増加を達成しました。

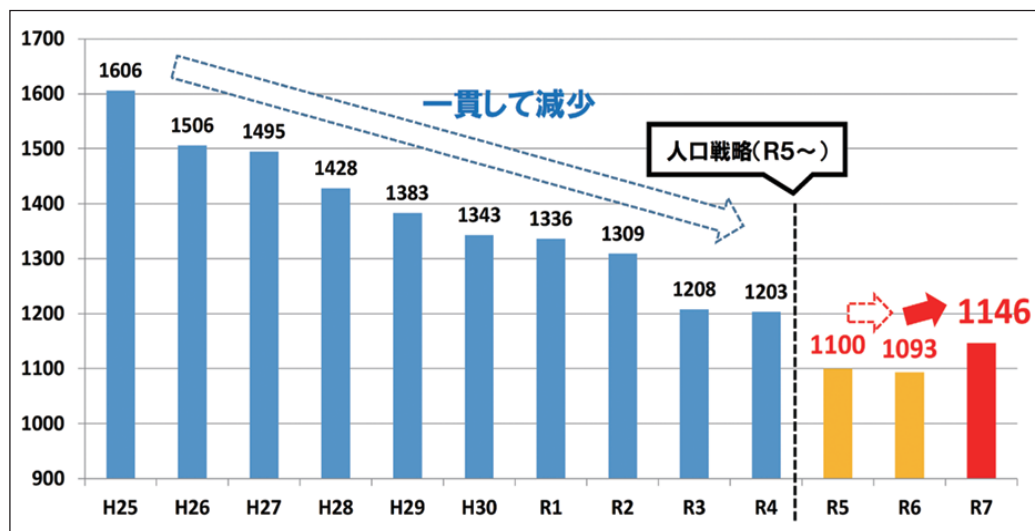


12年ぶりの出生数の増加

これまで一貫して減少していた出生数についても、令和7年度は1,146人となり、12年ぶりに前年比53人の増加に転じました。

これは、「3つの完全無料化」などの当市独自の子育て支援策を実施し、「安心して子どもを産み育てられるまち」の実現に取り組んだ結果と言えます。

今回の出生数の増加は、人口戦略による取組が、まちの基盤である「人口」の維持に大きく寄与していることを意味しており、今後とも、子育て支援を含めた人口戦略を積極的に展開し、人口の維持を目指してまいります。



しまのうらしま

漁業の島「島野浦島」を観光で活性化

延岡市の島野浦島は、県内最大規模の人口を有する有人離島であり、かつては「イワシの舞う島」と呼ばれたほど、古くから漁業が盛んな地域です。しかしながら、最盛期には2,500人近くいた島民も現在は600人程度にまで減少するなど、人口減少や少子高齢化が進んでおり、近年では、漁業者の廃業など、基幹産業である漁業の低迷にも直面しています。



県内最大の有人離島「島野浦島」

そのような中、観光で島を盛り上げようと、島の若手漁師などが中心となって令和6年5月に「NPO法人しまうら未来開発プロジェクト」を設立しました。同NPOは、クラウドファンディングで資金を集めて島野浦観光案内所を開設したほか、春には島の遠見場山に咲くつつじを楽しむトレッキングツアー、夏にはビーチイベントを企画するなど島に観光客等呼び込む取組を行っています。



NPO法人と観光案内所オープニングセレモニー

観光を推進する上で重要な要素となるのが、島の魅力の1つである「食」です。島内には令和4年3月にオープンした唯一の飲食店があり、同NPOの取組と連携していく機運が高まっていましたが、残念ながら令和6年8月に閉店しました。そこで、同NPOの理事の1人が専務を務める有限会社木下水産が令和7年7月にカフェ「Blue Reef (ブルー リー

フ)」をオープンしました。同店では、同社の新鮮なブランド養殖真鯛「しまうら真鯛」を使った定食や丼物が提供されており、多くの方から好評を得ています。現在では、島を訪れる大きな目的の1つとなっています。



ジャズが流れるカフェでいただく豪華な「しまうら真鯛御膳」

また、滞在拠点も観光の重要な要素ですが、島内の宿泊施設は経営者の高齢化などもあって廃業が続き、近年では民泊が1軒のみとなっていました。加えて、島と本土とのアクセスは、高速艇（片道約10分）とフェリー（同約20分）の2隻合わせて1日最大15往復運航しており、気軽に訪れることができることから、滞在拠点が十分とは言えない状況でした。

そのような中、株式会社瑠璃色が15年ほど前に廃業した民宿を事業承継し、令和8年3月から民宿「Island Base Shimami (アイランド ベース シマミ)」として営業を開始しました。島の夜の時間を楽しむことができる滞在拠点として観光の一翼を担っています。



民宿でのんびりと島を満喫

これらの取組に加え、行政とも連携した観光振興の取組が今後も少しずつ広がり、島野浦島が観光の島として、延岡市を訪れる目的地となることを期待しています。皆様も是非一度、島野浦島へ足を運んでいただき、その魅力を体験してみてください。

ザ・まちおこし



国富町



なぜ国富町は「鶏炭のまち」を名乗るのか

突然ですが、^{とりすみ}「鶏炭のまち」と聞いて、皆さんは何を想像されるでしょうか。

鶏炭とは、宮崎県民にはおなじみの「鶏の炭火焼き」のこと。国富町では、この親しみ深いソウルフードを通じて地域を盛り上げようと、「鶏炭のまちくにとみ」を合言葉にまちづくりを進めています。

宮崎には数多くの魅力があります。海、山、神話、そして食。そんな魅力あふれる宮崎で、当町らしさをどう発信するかを考えたとき、私たちがたどり着いたのが「鶏炭」でした。

鶏炭に難しい説明はいりません。香ばしい香りに誘われ、ひと口食べれば思わず笑顔になる。さらにかみしめれば幸せまでもかみしめられる。世代を超えて親しまれ、県外の方にも喜ばれる。そんな力を持つ地域の食文化です。

地域ブランドづくりにおいて大切なのは、地域の人が愛し、誇りを持てる素材を見つけることではないでしょうか。当町にとっての鶏炭は、まさにその存在です。

今年、当町は町制施行70周年という大きな節目を迎えます。その記念事業の一つとして、この夏、「鶏炭デジタルスタンプラリー」を開催する予定です。参加者には当町ならではの景品も用意し、楽しみながら町内を巡っていただける企画となっています。

スタンプラリーをきっかけに初めて国富町を訪れる方もいれば、改めて地域の魅力を再発見する町民もいることでしょう。そして、まちを巡り、鶏炭を味わいながら、人と人、まちと人がつながる機会になればと願っています。

県内各地で特色ある地域づくりが進められる中、国富町もまた、「鶏炭」という少し変わった看板を掲げながら挑戦を続けています。もし今後、「鶏炭のまちくにとみ」という言葉を見かけたら、是非私たちのことを思い出してください。



鶏炭といっても見た目やテイストが
お店ごとに異なるのはご存知のとおり

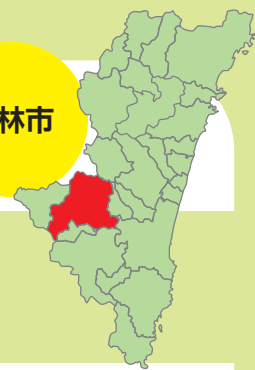


町内全ての鶏炭提供店を
自ら食べ歩いて制作した鶏炭マップ

ザ・まちおこし



小林市



地域主体で実施する買い物支援及び 自主財源確保の取組

小林市の細野中学校区を舞台に活動する「細野まちづくり協議会」は、平成27年の設立以来、伝統イベントの継承から学習支援教室、子ども食堂の運営まで、いつまでも住民が手を取り合い助け合う「なんでも小林一のまち細野」をテーマとして、地域コミュニティの創出に邁進しています。

近年、細野地区では地域の暮らしを支えてきた買い物施設が相次いで閉店・移転し、日常の買い物や住民同士の交流の場が失われつつありました。この深刻な地域課題を解決し、再び人が集い、つながる場を創るため、同協議会は地域商店兼加工場「細野さくら商店」をオープンさせました。

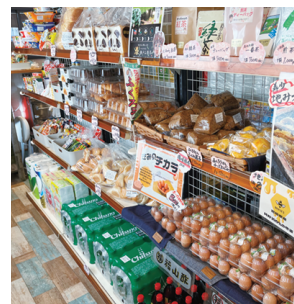


細野さくら商店オープニングイベント、運営役員記念撮影

元ラーメン店を活用した約40平方メートルの店舗には、生鮮品や食料品、日用品など約500種類の商品が並びます。さらに店舗内の加工場で同協議会が手作りした唐揚げや肉じゃがなどの惣菜を小分けにして冷凍販売しており、高齢単身者の多い地域のニーズにも細やかに対応しています。本事業は県と市の補助金を一部活用して立ち上げられ、運営費は商店の売上で賄うという、自主財源確保のモデルケースでもあります。



細野さくら商店内の様子



さらに、商店への来店が難しい交通手段のない高齢者などを支えるため、同協議会は移動販売車の運行も開始しました。毎週土曜日に店舗の商品を積んで地区内の公民館などを巡回しており、利用者からは「自分の目で見て買えるのが楽しい」と歓迎されています。この移動販売は、単なる買い物支援にとどまらず、地域の見守りや防犯、新たな交流を生み出す役割も担っています。

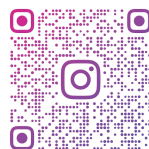


移動販売車出発式の様子

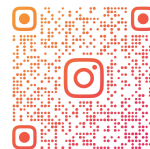


公民館での販売風景

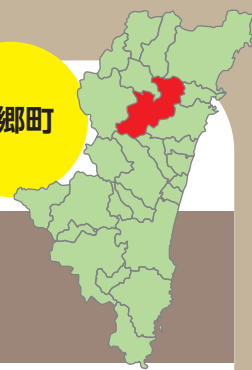
「参加したくなる地域活動づくり」を根底に、住民の知恵と団結力で課題を笑顔で乗り越えていく細野地区。誰もが孤立せず、温かく暮らせるまちを目指し、細野まちづくり協議会はこれからも住民のアイデアを形にしながら歩みを進めていきます。



@HOSONO_MACHIKYO



@HOSONO_SAKURA_SHOTEN



美郷町が育む歴史と郷土の味

美郷町は、九州山地の豊かな自然に囲まれ、歴史や文化が今も息づく町です。

当町を代表する郷土料理が「栗おはぎ」です。県内有数の栗の産地である当町ならではの一品で、地元産の栗を使った栗あんで包まれたおはぎは、栗本来の風味とやさしい甘さが楽しめます。運動会やおもてなしの場でも親しまれ、多くの人に愛され続けています。



栗おはぎ

歴史を感じられる名所も当町の魅力です。「西の正倉院」は、奈良の正倉院を原寸で再現した木造建築です。また、「百済の館」では、当町と古代朝鮮・百済との歴史的なつながりを紹介しており、地域に受け継がれてきた文化や交流の歴史を学ぶことができます。



西の正倉院

豊かな自然、受け継がれる食文化、そして歴史ロマンが調和する美郷町へ、是非一度足を運んでみてください。



百済の館

秋には紅葉ライトアップも!!

癒やしスポット「長田峡」



長田峡ライトアップ

川のせせらぎや鳥のさえずりに耳を傾け、安らぎを感じることができる。

頬をなでる風、新緑や紅葉に、季節の移ろいを感じることができる。

心と体のリフレッシュに最適な、三股町の観光スポットの1つである長田峡は、約3万年前、現在の鹿児島県錦江湾奥部で発生した巨大噴火によって噴出した火砕流（入戸火砕流）が当町まで到達し、堆積したことによって形成されたといわれる峡谷です。鰐塚山系



遊歩道沿いの木々がライトに照らされ幻想的な雰囲気



ライトアップは東屋に腰かけて楽しむこともできる

が生み出す豊かな水が流れ、町民生活のみならず、当町の基幹産業である農業を支えています。

約10kmに及ぶ長田峡の一部に遊歩道や東屋を整備したのが、長田峡公園。平成28年には、公園内に50本の本モミジを植栽し、毎年11月から12月、紅葉の時期に合わせてライトアップを行っています。毎年多くの人でにぎわうライトアップでは、色づくモミジ、峡谷の岩肌や堰堤から流れる水が、昼間とは異なる雰囲気を醸し出します。



町の中心部に流れ、まちに豊かさをもたらす



峡谷横の遊歩道

また、長田峡にはカップ伝説が残っていることから、町内の陶芸家が制作したカップのオブジェを設置。公園内には種類の異なる9体のオブジェが潜んでいます。来場の際には、どこに潜んでいるのか探してみてください。

～ information ～

住 所：宮崎県北諸県郡三股町大字長田6580-1

駐車場：40台（大型バス1台可）

トイレ：あり（洋式あり、おむつ交換台なし）

入場料：無料

お問合せ：三股町観光協会（町企画商工課内）

☎0986-52-9085



たかじょう

高城合戦の史跡



根白坂砦での説明会

木城町内には様々な文化遺産が引き継がれていますが、特徴的なものの1つとして町の中心部周辺に残る、2度にわたる戦国期の戦の跡（高城合戦の史跡）が挙げられます。重要な点は、中世城郭・高城をシンボルとする当地は、偶然、戦場になったのではなく、古代からの陸路と水運路が交わる要衝であったことです。

「耳川合戦」とも呼ばれる天正6年（1578年）の第1次合戦は、九州北部の大友氏と南部の島津氏による九州の覇権をめぐる争いで、これに大勝した島津氏は九州制圧を進めます。天正15年（1587年）の第2次合戦では、羽柴（豊臣）秀長率いる豊臣氏の軍勢が島津氏を制し、それにより戦国の世の終焉に向けた動きが加速します。

この2度の合戦で、島津氏家臣の山田有信が守る高城は、周囲に陣を構える敵兵の攻勢によく耐え、落城しませんでした。高城の南方にある根白坂の砦では、第2次合戦時に、豊臣氏の家臣・宮部継潤が島津氏方の援軍をくい止め、大勢に影響を与えたと伝えられています。

これら高城などの旧跡は、近年では学校教育の場でも取り上げられるなど、シビックプライドを醸成する1つの要素となることが期待されています。木城町ではそれらの一層の活用を目指しており、万全な状態で保存・継承されるように調査を進める予定です。



高城跡と木城町中心部



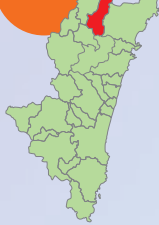
まかっしょけ!

私たち頑張っちょいま～す。



日之影町保健センター
かい みゆう
甲斐 美有さん

日之影町



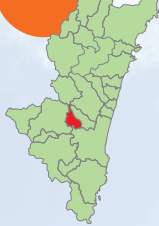
甲斐さんは入庁2年目で、1年目から保健センターで勤務しています。バラエティー豊かな専門職が多い職場の中でもペースを乱さず、積極的に窓口対応を行い、的確に仕事をこなしていく姿は1年目からとても頼もしい存在です。甲斐さんは、常に笑顔を絶やさず、どんな住民や職員ともすぐに打ち解けてしまえるとても温かみのある素敵な人です。1年目の途中から係員1名になってしまうという不測の事態にも屈せず、持ち前の明るさと対応力で乗り切ってくれました。(あの時は本当にありがとう!)プライベートでは、ご家族を大切にしている姿や趣味のバレーに打ち込む情熱的な一面もあるなど、彼女の魅力は尽きません。これからも日之影町のために活躍しますます成長していく彼女を楽しみにしています。

(保健センター 係長 古江 美樹)



綾町農林振興課
いりふね さき
入船 紗希さん

綾町



今年で入庁2年目を迎えた、農林振興課期待の入船紗希さんを紹介します。紗希さんは、当町出身で、地元への思いを大切にしながら頑張っている職員です。いつも明るく元気いっぱい、職場をパッと明るくしてくれる我が課のムードメーカーです。入庁当初に掲げた「報連相の徹底」と「不撓不屈の精神」をモットーに、日々実直に業務に励んでいます。

何事にも全力で取り組み、農家さんとも臆することなく真剣に向き合って仕事をしてくれるその姿勢は、農家さんからの厚い信頼にもつながっています。今年からは後輩もでき、面倒見の良さを発揮する頼もしい先輩でもあります。

また、町の消防団にも所属し地域活動へ積極的に参加するほか、休日は「推し活」で東京や大阪へ出向くなど、公私ともにパワー全開で活動しています。

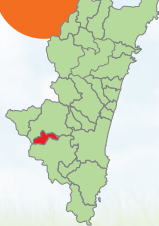
今後、若手職員の、そして地域のリーダーとして大きく羽ばたいてくれることを心から期待しています。

(農林振興課 課長 入田 賢一)



高原町建設水道課
しらいし こうき
白石 暁毅さん

高原町



今年度で入庁2年目の白石さんは、元気いっぱいの青年です。入庁から建設水道課建設係に配属され、道路整備事業関連の業務を行っています。

入庁1年目は先輩職員の指導の下、業務の流れをつかむため、日々奮闘して業務を行っていました。

業務については遅延なく事務処理等を行い、窓口対応においても内容を聴き取り、丁寧な対応を行っており、町民の方々も安心して相談されています。

白石さんの人柄でしょうか、多くの業務を担当していても、弱音を吐かず、笑顔も絶やさず頑張っている姿を見て、私も改めて見習うことがあると感じています。

今年度は高校の同級生が新規採用となり当町に入庁し、同じ建設係に配属され、同級生の後輩ができました。今後、2人が切磋琢磨して良い関係でこの役場を背負っていく職員になってほしいものです。

高原町のために、さらなる活躍をしてくれることを期待しています。

(建設水道課 建設係長 古川 潤二)

宝くじ収益金を様々な事業に活用しています

当協会は、市町村振興宝くじ(サマージャンボ等宝くじ)の収益金を、市町村の振興支援資金として効果的に活用するため、これを積立て、有効かつ適正な運用管理を行うことで、全県的な視野に立った事業展開に努めています。

昭和54年4月の設立以来、市町村の公共施設整備等のための資金融資、職員の研修、市町村振興のための助成、調査研究など様々な事業を実施しています。

また、平成13年度に創設された新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ宝くじ)の収益金を地方財政法第32条に定める事業の財源として、積極的に活用できるよう全額を全市町村に交付しています。

① 資金貸付事業

市町村における災害防止対策や、緊急に整備を要する施設等の整備に対して資金の貸付事業を行っています。本事業の財源は、宮崎県から交付される市町村振興宝くじ(サマージャンボ宝くじ)交付金を積み立てた宝くじ積立資産を原資とし、貸付利率は、貸付実行日における政府資金(財政融資資金)の利率を基準として、一般財団法人全国市町村振興協会の市町村振興基金貸付利率に準じた取り扱いとしています。

地方債資金としての長期貸付と、一時借入金としての短期貸付があり、概要は次のとおりです。

(1) 長期貸付

- 償還期限： 5年(うち据置期間1年) 10年(うち据置期間2年)
12年(うち据置期間2年) 15年(うち据置期間3年)
20年(うち据置期間4年)
- 貸付日： 5月24日、3月24日
- 貸付予定： 令和8年度 4市6町1一部事務組合(39事業) 1,986,778千円
- 貸付実績： 令和7年度 5市5町1一部事務組合(51事業) 2,209,700千円
令和6年度 5市6町1一部事務組合(53事業) 2,325,100千円
- 主な事業： 文化施設維持管理事業(公共)(清武文化会館改修事業)(宮崎市)
文化ホール・図書館複合施設 外壁防水工事(川南町)
CATVサブセンター機器更新事業(美郷町)

(2) 短期貸付

- 償還期限： 貸付年度内
- 貸付日： 随時
- 貸付実績： 近年実績なし

② 新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ宝くじ) 交付金市町村交付状況

新市町村振興宝くじ（ハロウィンジャンボ宝くじ）交付金は、地方財政法第32条に定める事業の財源として積極的に活用できるよう、交付金のすべてを全市町村に交付しています。

令和7年度配分額 165,288,357 円（うち時効金 8,192,779 円）
 預金利息 22,275 円
 交付額 合計 165,310,632 円

（単位：千円）

市町村名	令和7年度交付額			令和6年度交付額			備 考
	均等割	人口割	計	均等割	人口割	計	
宮 崎 市	2,119	41,353	43,473	1,913	37,325	39,238	
都 城 市	2,119	16,552	18,671	1,913	14,940	16,853	
延 岡 市	2,119	12,199	14,318	1,913	11,011	12,924	
日 南 市	2,119	5,239	7,359	1,913	4,729	6,642	
小 林 市	2,119	4,500	6,619	1,913	4,061	5,974	
日 向 市	2,119	6,144	8,263	1,913	5,546	7,458	
串 間 市	2,119	1,733	3,853	1,913	1,564	3,477	
西 都 市	2,119	2,948	5,067	1,913	2,661	4,574	
えびの市	2,119	1,817	3,937	1,913	1,640	3,553	
三 股 町	2,119	2,637	4,756	1,913	2,380	4,293	
高 原 町	2,119	890	3,010	1,913	803	2,716	
国 富 町	2,119	1,896	4,015	1,913	1,711	3,624	
綾 町	2,119	714	2,834	1,913	645	2,558	
高 鍋 町	2,119	2,053	4,172	1,913	1,853	3,766	
新 富 町	2,119	1,707	3,826	1,913	1,540	3,453	
西米良村	2,119	103	2,222	1,913	93	2,006	
木 城 町	2,119	504	2,624	1,913	455	2,368	
川 南 町	2,119	1,566	3,685	1,913	1,413	3,326	
都 農 町	2,119	1,021	3,140	1,913	921	2,834	
門 川 町	2,119	1,791	3,910	1,913	1,616	3,529	
諸 塚 村	2,119	153	2,272	1,913	138	2,051	
椎 葉 村	2,119	258	2,377	1,913	233	2,146	
美 郷 町	2,119	497	2,617	1,913	449	2,362	
高千穂町	2,119	1,200	3,319	1,913	1,083	2,996	
日之影町	2,119	375	2,494	1,913	338	2,251	
五ヶ瀬町	2,119	358	2,477	1,913	323	2,236	
計（26）	55,104	110,207	165,311	49,736	99,472	149,208	

【配分基準】 均等割 1／3 人口割 2／3

※千円単位で計上したため、端数処理の関係から合計額と一致しない。

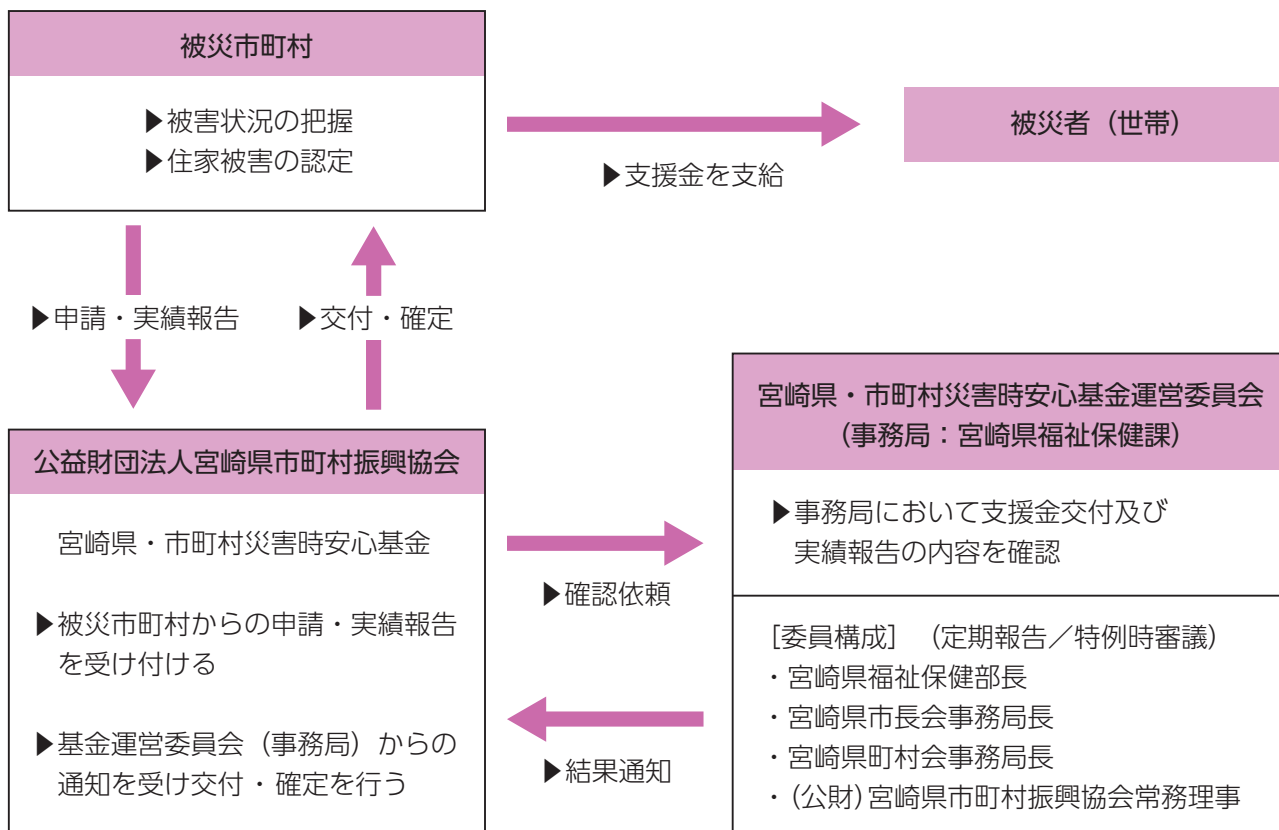
宮崎県・市町村災害時安心基金による被災者支援事業

1. 目的

宮崎県内で発生した自然災害により住家に著しい被害を受けた被災者（以下「被災者」という。）の生活の支援及びその生活基盤に著しい被害を受けた者の生活の再建を支援するため、被災者の支援事業を行う市町村に対し、安心基金を活用して支援金を交付します。

宮崎県・市町村災害時安心基金の概要	
(1) 基金の額	6億円（平成19年度から県、市町村が1億円ずつ3年間積立）
(2) 基金の設置場所	公益財団法人宮崎県市町村振興協会
(3) 適用災害	平成19年度に発生した自然災害から適用 （被災者生活再建支援は令和2年度から適用）
(4) 対象市町村	自然災害により全壊、大規模半壊、中規模半壊、半壊又は床上浸水の住家被害があった市町村
(5) 支援金交付先	被災市町村（被災者へは被災市町村が支給）
(6) 基金の残高	410,519,507円（令和8年3月31日現在）

2. 宮崎県・市町村災害時安心基金による支援金の交付フロー



3. 宮崎県・市町村災害時安心基金による支援金額

(1) 宮崎県・市町村災害時安心基金支援金の額

床上浸水以上の住家被害がある場合の自然災害が対象

(単位：万円)

住宅の被害程度	全 壊	大 規 模 半 壊	中規模半壊または 半壊(床上浸水含む)
支 給 額	20	15	10

(2) 宮崎県・市町村被災者生活再建支援金の額

国の被災者生活再建支援法が適用された自然災害により、法の適用以外の市町村において住家被害が発生した被災世帯が対象

(単位：万円)

区 分		基礎支援金 住宅の被害程度 ①	加算支援金 住宅の再建方法 ②		計 ①+②
複数世帯 (世帯の構成員 が複数)	全壊 (損害割合 50%以上) 解体 長期避難	100	建設・購入	200	300
			補修	100	200
			賃借	50	150
	大規模半壊 (損害割合 40%台)	50	建設・購入	200	250
			補修	100	150
			賃借	50	100
	中規模半壊 (損害割合 30%台)	—	建設・購入	100	100
			補修	50	50
			賃借	25	25
単身世帯 (世帯の構成員 が単数)	全壊 (損害割合 50%以上) 解体 長期避難	75	建設・購入	150	225
			補修	75	150
			賃借	37.5	112.5
	大規模半壊 (損害割合 40%台)	37.5	建設・購入	150	187.5
			補修	75	112.5
			賃借	37.5	75
	中規模半壊 (損害割合 30%台)	—	建設・購入	75	75
			補修	37.5	37.5
			賃借	18.75	18.75

※賃借は、公営住宅を除く

4. 宮崎県・市町村災害時安心基金を活用した被災者支援の実績

令和7年度の交付は、以下のとおりです。

(1) 市町村災害時安心基金支援金（被災者生活支援金）

(単位：万円)

市町村名	全 壊		大規模半壊		中規模半壊		半壊(床上浸水含む)		合 計		事 由
	世帯数	支援金	世帯数	支援金	世帯数	支援金	世帯数	支援金	世帯数	支援金	
延 岡 市							2	20	2	20	令和6年10月22日 大雨
宮 崎 市							1	10	1	10	令和7年1月13日 地震
都 城 市							3	30	3	30	令和7年8月8日 大雨
延 岡 市							3	30	3	30	令和7年9月4日 台風15号
新 富 町							1	10	1	10	
合 計	0	0	0	0	0	0	10	100	10	100	

(2) 市町村被災者生活再建支援金

(単位：万円)

市町村名	全 壊		大規模半壊		中規模半壊		合 計		事 由
	世帯数	支援金	世帯数	支援金	世帯数	支援金	世帯数	支援金	
宮 崎 市			1	200			1	200	令和4年9月 台風14号
西 都 市					1	75	1	75	
美 郷 町			2	200	1	50	3	250	
合 計	0	0	3	400	2	125	5	525	

令和8年度もたくさんの研修を実施しています

宮崎県市町村職員研修センターでは、県内市町村や一部事務組合等の職員の皆さんを対象とした研修を実施しています。今年度は50課程の研修を実施予定です。

ここでは、今年度既に終了した研修を受講された皆さんの感想の一部をご紹介します。

新規採用職員前期研修

地方公務員としての意識を確立し、職務に必要な基礎的知識、技能及び心構えを習得する研修です。

- 今まであまり理解していなかった言葉遣いや、名刺交換の仕方などを学ぶことができて、大変勉強になった。これから市民の方々や上司と話す際にも、正しい言葉遣いで話せるようになりたい。また、他の市町村の方とも交流することができて楽しく研修を受けることができた。
- 公務員としての在り方や人権の知識、ビジネスマナーなど、今後仕事をしていく上で欠かせないことを3日間しっかりと学ぶことができたため、非常に充実しており、自分を見直す良い機会となった。
- 日々の業務だけでは知らなかったことやきちんと身につけなかったであろうことが、研修を通してたくさん学ぶことができたので、とてもいい機会になった。



新任課長補佐研修

管理職として、心理的安全性の高い職場づくり、ハラスメントにならない部下への指導やコーチングスキルを学びます。

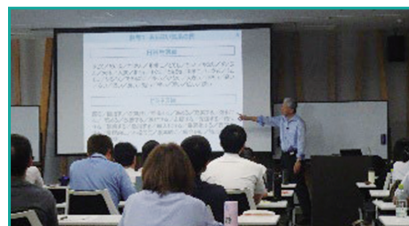
- ロールプレイをしていますが、コーチングはとても難しかった。難しいということは、普段からできていないということ。今回の研修で教えていただいたことを、少しずつ実践して自分のものにしたい。
- 大変楽しく受講させていただいた。普段、自分が気をつけていることと一致していることも多く、安心した。
- 2日間という長い時間をかけて、知識だけでなく実践までできて大変参考になった。ロールプレイを通じて、自分の考えをアウトプットすることで、自身のビジョンがより明確になったのもよかった。



ワンペーパー資料作成セミナー

A4用紙1枚に情報を簡潔にまとめ、分かりやすく伝える技術を習得します。

- 自分は説明が苦手なのでいつも資料にほとんどの情報を入れ込んで、資料が多くなってしまっていたが、今回学んだことを生かし、分かりやすい資料を作っていきたい。
- 普段から分かりやすい文書を作りたいと思っていたが、今日の研修を受けて、分かりやすさの本質が初めて分かった。
- 分かりやすい資料の作成方法はセンスも必要であると思っていたが、センスではなく知識がなかっただけで、ルールさえ覚えておけば誰でも分かりやすい資料を作ることができて大変勉強になった。



議会答弁書作成セミナー

実際の議会対応を想定しながら、本番で活用できる答弁書作成スキルの習得を目指します。

- 答弁書作成の骨子が学べたと思う。また、グループワーク中心であったが、他の自治体の議会制度なども知ることができて、有意義だった。
- 質問に回答するだけではなく、議員への事前の真意確認や質問の背景、回答の言い回しなど、いろいろなことに気を配る必要があると感じた。貴重な研修になった。
- 議会だけでなく、いろいろな会議（協議会や委員会等）での質疑応答にも役立てられると感じた。



リスクマネジメントセミナー

日常業務で直面するリスクを予測し、適切に対応するための知識とスキルを習得します。

- リスクには様々な種類があり、頻度、影響の大きさによって、効果的な対応をしていくことが重要であると考えた。また、他の自治体職員との意見交換でいろいろな気づきがある研修だった。
- リスクマネジメントの基礎から具体的な対応方法まで体系的に学ぶことができ、大変勉強になった。身近な事例を通して、日常の業務の中にも多くのリスクが潜んでいることを実感した。今回学んだ「事前に想定して備える」という視点を忘れずに、自分の業務をもう一度見直し、職場全体で共有していきたい。



若者と雇用動向に関するセミナー

データを用いた宮崎の現状分析を通じて若者の考え方や雇用に対する期待を明確にして、効果的な施策を見つけるノウハウを学びます。

- 学生にも入っていただいて、生の声が聞けたのが大変勉強になった。公務員は賃金などが法律で決められているので差はつけられない中、公務員になってできることの発信や、若者の居場所づくりを丁寧に行うことが必要だと学んだ。
- 県内の雇用動向の統計データを確認することで、実際に今日でも若者の県外流出は続いていると感じた。自治体も優秀な人材を求めている中で県外への流出が続くことは、地方行政を運営していく中での損失となり得る。ずっと議論されているテーマであっていろいろな自治体対策を練っていると思うが、是正していくことが重要だと感じた。
- 学生の生の意見や数々のデータにより知らなかったことが少しずつ見えてきたような気がした。
- 自分自身の仕事に対する熱量の持ち方や将来像を構築するためにどう考えていくべきかということを再確認できた。



研修センターの注目研修 Pick Up

今年度実施したおススメ研修をピックアップしてご紹介します。
(※今年度分は既に終了しました。)

時間のマネジメントセミナー

このセミナーでは、業務量の増加や突発的な対応がある行政現場において、日々の業務を合理的かつ効率的に進めるためのタイムマネジメントの考え方と実践方法を学びます。

タイムマネジメントとは何か、時間という資源の大切さ等から、To-Doツールによる業務の「見える化」などの具体的な方法まで学び、受講者からは「時間を管理するのではなく、生産性を高める視点で業務を進めることの大切さを学んだ」「平等に与えられた時間をいかに上手く活用するかで、仕事もプライベートも充実度が変わると感じた」「日頃忙しいと感じていても、効率よく改善できる部分があると感じた」「タスクの見える化やスケジュール管理をより効率化できる有意義な研修だった」などの感想が寄せられました。



Z世代の育て方セミナー（オンライン研修）

このセミナーでは、Z世代（概ね1990年半ば～2010年頃までに生まれた世代）といわれる若手職員が育ってきた背景を振り返り、価値観を知ること、コミュニケーションや育成における効果的なポイントや指導スキル、指導者としての在り方を学びます。

世界と日本のZ世代の違い（人口比、過去20年の景況）、Z世代が育った時代背景、Z世代の働き方や社会や組織への関わり方などの特徴を学び、タイプに合わせた声掛けや指示、指導の在り方など、具体的な育成方法について、オンライン上でグループワークを交えながら学びました。受講者からは「Z世代のパターンや背景を知ったことで、その子たちに合った対応や自分の気持ちの整理の仕方を考えることができた」「部下への対応で毎日悩んでいたのが具体的なことを学ぶことができてよかった。なかなか難しい問題だが今日学んだことを活かして部下たちのためにも頑張りたいと思った」などの感想が寄せられました。

アサーティブコミュニケーションセミナー

このセミナーでは、相手を尊重しながら、自分の意見や気持ちを率直かつ誠実に伝え、信頼関係を築いていく方法である「アサーティブコミュニケーション」について学びます。

受講者自身のコミュニケーションの自己点検、具体的な事例を用いた「率直に頼む・相手を尊重した“NO”の伝え方」「建設的な注意・提案の伝え方」を学び、自らの課題についてグループでロールプレイを行いました。受講者からは「ロールプレイが多く、事例やグループメンバーの実話に基づいて練習したので、実践的で分かりやすかった。講師の先生が肯定的に受け止めてくださったので、参加しやすかった」「アサーティブとは相手の気持ちも理解しながら、自分の気持ちにも正直になることだと理解でき、仕事に取り組む姿勢が少し楽になったように思う」などの感想が寄せられました。



これから実施する各種研修のご案内

宮崎県市町村職員研修センターがこれから実施する予定の研修をご紹介します。
興味のある研修がありましたら、各市町村・団体の研修担当課を通じてお申し込みください。
皆さんの受講を心からお待ちしております。

キャリアデザインセミナー

自治体職員としてのキャリアの捉え方や自己理解を深めながら、自分らしい働き方や生き方、今後のキャリアプランを構築するための視点を身に付けることを目指します。

- ◆こんな方におすすめ 自分の働き方に迷っている方。自己理解を深め、組織の調和を考えたい方。
様々なプレッシャーの中で、どのように仕事と向き合うのかを考えたい方。
- ◆日程・会場 第1回 令和8年10月15日（木） 西米良村基幹集落センター 2階ホール
第2回 令和8年10月16日（金） 自治会館 3階大会議室
- ◆講師 株式会社Plan-B 代表取締役 吉田 武司

カスタマーハラスメント対応研修

正当な要望とハラスメント行為を区別する視点、安全に話を進めるためのコミュニケーション技術と対応フローを身に付け、実践ロールプレイングを通して、どのような場面においても「自分と仲間を守り、組織として適切に対応できる状態」を目指します。

- ◆こんな方におすすめ 窓口や電話での対応が多く、理不尽な要求に困ることがある方。
組織としての「守り方」を理解し、安全に業務を進めたい方。
- ◆日程・会場 第1回 令和8年11月11日（水） 宮崎県防災庁舎 6階研修室
第2回 令和8年11月12日（木） 宮崎県防災庁舎 6階研修室
※宮崎県自治学院との合同開催
- ◆講師 結エデュケーション株式会社 代表取締役 高嶋 謙行

ハラスメント防止基礎セミナー（第2回～第4回）

ハラスメントの基本的な考え方を整理し、無意識の言動が職場に与える影響について理解を深めることを目的としています。知識だけでなく、自己感情のセルフコントロール、相手を尊重した伝え方をロールプレイング等の実習を通して体感的に学びます。

- ◆こんな方におすすめ ハラスメントの基礎を理解し、日常の言動や職場での関わり方を見直したい方。
自己感情のセルフコントロール力を高めたい方。
語彙力を磨いて前向きに伝える技術を習得したい方。
- ◆日程・会場 第2回 令和8年11月25日（水） 日南市役所別館 2階会議室 4
第3回 令和8年11月26日（木） 自治会館 3階大会議室
第4回 令和8年11月27日（金） 延岡市役所 5階災害対策本部室
※第1回（えびの市開催）は終了しています。
- ◆講師 株式会社キャリアレイズ 代表取締役 濱本 ひとみ

クレーム対応セミナー

このセミナーでは、接遇や住民満足（CS）の本質を理解し、クレーム対応の基礎知識やポイントを学ぶことができます。カスタマーハラスメントについても実践的なロールプレイングを通じて組織的に対応する技術を学び、実際の現場で役立つスキルが身につきます。

- ◆こんな方におすすめ クレーム対応に困っている方。窓口業務担当者や住民対応が多い方
中堅職員、係長級、課長補佐級におすすめ
- ◆日程・会場 第1回 令和9年1月19日（火）～20日（水） 日向市役所4階委員会室
第2回 令和9年1月21日（木）～22日（金） 自治会館3階大会議室
- ◆講師 結エデュケーション株式会社 代表取締役 高嶋謙行

定年延長セカンドキャリア研修（第2回）

定年延長によって働き方や立場が変わる職員が、引き続き能力を発揮していくために必要な考え方や知識、技術の効果的な伝承のポイントを習得することをねらいとしています。また、新しい分野や担当業務でのスキル向上を目指す必要性を認識し、職場のメンバーとのスムーズなコミュニケーションスキルを身に付けます。

- ◆こんな方におすすめ 定年延長の影響を受ける、または受けた職員。50代半ばからおすすめ。
- ◆日程・会場 第2回 令和9年2月3日（水） 自治会館3階大会議室
- ◆講師 株式会社社会人大学 専任講師 熊田 鋼嗣

市町村
振興支援事業

市町村振興支援事業

1. 市町村窓口業務改善事業

この事業は、市町村振興協会が人材育成や教育等の専門の講師を関係市町村へ直接派遣して、窓口における現状のサービスレベルを調査及び評価します。その結果を基に市町村ごとの改善提案及び研修を実施し、窓口での対応をより良いものにすることを目的としています。

令和8年度は、日南市、串間市、えびの市、西米良村、川南町で本事業を実施します。

現場の気付きが、窓口を変える

～令和7年度実施市町村の声～ 日向市

窓口は、住民の皆さんが行政と最初に接する場所であり、その応対や環境は、市役所全体への印象や信頼にもつながる大切なものと改めて感じました。

事前アンケートでは、視線やレイアウトの影響で説明に集中しづらいこと、案内表示や番号札が分かりにくいこと、また電話や窓口での断り方、相づち、言葉のニュアンスに難しさを感じていることなど、現場ならではの課題が見えてきました。



研修会の様子

R7.11.6 於：日向市健康管理センター

研修では、接遇の基本に加え、相手に配慮した言葉選びや理由を添えた伝え方、否定的な表現を避けた説明、相づちの工夫などを学び、日々の応対を見直すよい機会となりました。

特に、相手の立場に立って分かりやすく伝えることが、安心感につながることを再認識しました。



分かりやすい説明と
コミュニケーションの基本を学びました

また、言葉遣いだけでなく、案内の見やすさや窓口の雰囲気づくりも、利用しやすくなることに大きく関わることを改めて実感しました。

今後は職員間でも学びを共有しながら、日々の実践の中で改善を積み重ねていくとともに、今回の学びを窓口・電話応対に生かし、住民の皆さんが安心して相談や手続きができる、より丁寧に親しみやすく、身近で利用しやすい窓口づくりにつなげていきたいと考えています。

2. 市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

この事業は、市町村と地域づくり団体等が協働して行う、地域づくり推進のための研修会など事業実施に要する経費を助成することにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

中学生の挑戦が、地域の未来をつくる

～令和7年度実施団体の声～ 三股中まちづくり部（三股町）

「中学生が考えるまちづくり」をテーマに、地域や町職員の皆さんと協力しながら活動を進めました。70名を超える生徒が参加し、条例づくりへの参画や特産品を活用した商品開発、公共施設の看板デザインの提案、地域イベントでの年越しそばの提供、SNSによる情報発信など、様々な活動に主体的に取り組みました。

活動を通して、生徒たちは地域の課題を自分たちで考え、多くの人と協力しながら形にしていく貴重な経験を積むことができました。私たちも、中学生ならではの柔軟な発想や行動力に刺激を受け、地域の大人にとっても新たな気づきや学びの多い取組となりました。

また、学校・地域・行政が同じ目標に向かって協力したことで、世代を超えたつながりが生まれ、地域全体で子どもたちを応援する機運も高まりました。生徒が自らのアイデアを実現し、「自分たちも地域の一員としてまちづくりに関われる」という自信を持てたことは、この事業の大きな成果だと感じています。



地域の大人と一緒に
「条例づくり」に取り組む生徒

今回の経験を大切にしながら、これからも地域と学校が連携し、未来を担う子どもたちが活躍できるまちづくりを続けていきたいと思います。



machidukuri_mimata

三股中まちづくり部

投稿4件 フォロワー495人 フォロー中3人

宮崎県北諸県郡三股町の魅力を地元の中学生在が発言中！

イベント/グルメ/特産品/映えスポット/まちづくり

■活動内容

- ◎三股町の特産品を使った商品開発
- ◎三股町のおすすめグルメ&映えスポット
- ◎イベント出店物作成やイベント企画&参加
- ◎三股の条例づくりにも参加！？

インスタグラムのアカウント

3. 市町村職員自主研究グループ支援事業

この事業は、市町村職員等で組織する自主研究グループ活動を支援することにより、職員同士が学び合う意欲を高め、職員の政策形成能力の向上等を図ることを目的としています。

令和8年度は、諸塚村自主研究グループと都城市自主研究グループが、新たなテーマで研究活動に取り組んでいます。

研究が広げた、新たな視点

～令和7年度実施グループの声～ NICHINAN INNOVATION（日南市）

「次世代職員の政策形成研修」を通じ、私たちはプロ野球キャンプ時の「宿泊難民解消と地域経済活性化」をテーマに研究に取り組みました。例年多くのファンが訪れる一方で、その8割が日帰りという日南市の課題に対し、市営住宅の空き部屋や道の駅を活用した宿泊増強策、さらに飲食店マップ「日南へようこそ」の作成やファン交流イベントなど、具体的で即効性のある施策を提案しました。

活動の中で、身近な未利用資産を「宿泊リソース」として再定義するなど、通常業務では触れない地域の新たな可能性や魅力、そして行政・民間が連携して課題に向き合う重要性を実感できたことは大きな気づきです。また、多様な部署のメンバーが多角的な視点を持ち寄り、1つの政策を



自主研究活動の成果発表の様子

形にできたことは、個々の企画立案力の向上のみならず、職員としての大きな財産となりました。

今回の研修で得たノウハウや部局を超えたつながりを、単なる研究で終わらせることなく、日々の業務でも実践し、日南市の持続可能な未来づくりと地域の課題解決に全力で生かしていきます。



令和7年度 海外派遣研修報告 海外派遣研修に参加して

宮崎市農地政策課 主任主事 藤岡 拓麻

日々の業務において付きまとう「DX化」の課題を肌で感じており、先進事例を個人的に学ぶため、令和7年度（2025年度）の海外派遣研修に参加しました。私は「DX」と「農林業」を担当する2班に所属しましたが、本研修では1班と全日程を共にしたことで、「教育」や「ウェルビーイング」を含めた多角的な視点から学びを深めることができました。

さて、一番の目的であった北欧におけるDXの先進性には大変驚かされました。プレススクールへの入所手続きがSMS1通で完了し、AIが福祉相談を自動で要約します。私たちがアナログ作業に時間を費やす一方で、「フィーカ（コーヒープレイク）」を楽しむ余裕がありました。DX化の目的は単なる効率化ではなく、創出した時間を「住民との対話」に充て、勤務時間内で成果を上げるとともに、職員のウェルビーイングを確保する構造改革でした。また、フィンランドの「Hippilande農場」では、AIを活用しつつ長期的なサイクルの「輪作」で土壌を守る、スマートで環境に配慮した農業経営に圧倒されました。さらに、農場でアルパカやウサギなどと触れ合う体験では、緊張感のある視察が続く中、動物たちの可愛らしさに大変癒やされました。

一方、1班が担当した「教育」と「ウェルビーイング」の報告からも大きな刺激を受けました。北欧では質の高い教育が無償で公平に提供され、競争よりも子どもの自己肯定感が重視されています。さらに、「自身が健康でなければ良い授業はできない」という考えの下、教員が休暇を取得しやすい仕組みが整備されていました。

今回の視察で得た内容は、紙面の都合上、大枠しか触れられませんが、私にとって非常に大きな学びとなりました。最大の学びは、全ての分野に共通する「人を中心に据え、ウェルビーイングを究極の投資とする」という哲学です。まずは自治体の現場で、DXを「人間らしい余白」を生み出す手段として活用し、創出した時間で住民の方々との対話を深め、持続可能な地域づくりへと還元していきたいと考えています。

結びとなりますが、苦楽を共にした他自治体の市町村職員の皆様、視察先及び企画・運営に尽力された皆様、そして快く送り出してくださった所属自治体の皆様に心より感謝申し上げます。



視察研修の様子（フッディング市）



視察研修の様子（ナッカ市）



視察研修の様子（Hippilande農場）



集合写真（テービー市の公立学校）



スウェーデンの街並み

編集 後記

地震や豪雨など各地で相次ぐ自然災害により被害を受けられました皆様に、心からお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈りするとともに、私たちも日頃の備えの大切さを改めて感じております。

さて、宮崎の各地域では、特産品や観光、伝統行事など、その土地ならではの魅力が再認識され磨きあげられています。

本号では、各市町村の皆様に、まちの概要や特色、歴史・文化、現在の取組などをご寄稿いただきました。紙面を通して、地域の魅力や、そこに暮らす人々の思いに触れていただければと思います。

発行にあたり、お忙しい中ご協力いただきました各市町村の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本冊子が、宮崎県内の市町村をより身近に感じていただくきっかけとなれば幸いです。

ハロウィン
ジャンボ

1等・前後賞合わせて4億円

1等2億円、前後賞各1億円

4億円

ハロウィン
ジャンボミニ

4,000万円

1等・前後賞合わせて4,000万円

1等2,000万円、前後賞各1,000万円

宝くじ収益金は
都道府県ごとの
販売実績に応じて
分配されます。

お買い求めは、
宮崎県内の
宝くじ売り場で!

各1枚
300円

9月16日(水) 発売

発売期間/9月16日(水)~10月16日(金) 抽せん日/10月26日(月)

PCやスマホで!
ネット購入

🔍 宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>



公益財団法人 宮崎県市町村振興協会

2026年新市町村振興宝くじ

この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。